

会議議事録

事業名	平成26年度「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成モデルの開発・実証
代表校	一般社団法人 全国専門学校教育研究会

会議名	第2回 実施委員会 第3回 開発・実証委員会 評価委員会
開催日時	平成26年11月12日(水) 14:00~16:00(3h)
場所	東京ガーデンパレス 2階「天空A」
出席者	<p>①委員 浦山 哲郎、井本 浩二、佐竹 新市、國分 義史、山崎 彰 川崎 千春、川越 宏樹、片岡 均、坪内 浩一、龍澤 正美、 山本 絵里子、鷺澤 文治、齋藤 進、大城 圭永、 中島 慎太郎、岡村 慎一、伊藤 慎二郎、飯塚 正成、 永井 真介、山口 典子、小林 昭文(計21名)</p> <p>(代理出席) 宮岡 良次、芦澤 昌彦、福田 稔(計3名)</p> <p>②事務局 下島 耕一、花田 香央理(計2名)</p> <p>(参加者合計名)</p>
	<p>(1) ID分科会の進捗状況報告と内容の協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ID分科会経緯(第1回、第2回、第3回)</li> <li>・ IDにおける教材設計・教員育成用教材作成支援 成果物概要</li> <li>・ 職業実践専門課程とIDの関係</li> <li>・ IDアンケート項目案</li> <li>・ ID事前学習用eラーニング(案)</li> </ul> <p>(2) AL分科会の進捗状況報告と内容の協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AL分科会経緯(第1回、第2回)</li> <li>・ AL型授業とALセッション</li> <li>・ AL型授業を実践する教員育成のための計画</li> </ul> <p>(3) 今後の日程について</p>

## 議題

浦山会長あいさつ

( I D )

岡村委員より

- ・最終的には、学科・科目の設計まで行う予定だが、今年の一つの授業を体系的に設計することが出来る教員の養成を行う
- ・次年度以降にカリキュラムまで含めた設計が出来るよう段階的に養成していく
- ・俯瞰図の説明
- ・職業実践専門課程と企業との連携についての説明
- ・PDCA（授業目標の明確化・ロードマップの作成・授業の実施  
学習成果の評価）
- ・会員校の教師の方々に事前アンケートをお願いする

山口委員より

- ・事前アンケートについて（方法、内容、対象者等）  
世間一般に公表するものではない
- ・eラーニング（事前学習用）の説明  
プロトタイプであるが、重要事項を取り入れている

岡村委員より（質問に答える形式）

- ・アンケートの文言について
- ・アンケートの数が多いと各分野の傾向値がわかるので、多くの教師にお願いしたい
- ・学生・教師のメリットについて  
学生：企業に就職した時に、I Dの経験は武器になる  
達成感、昂揚感  
教師：いろいろなコンテンツをデータベース化して、皆でそれを共有していける。どこに問題があったか、どこが出来なかったか検証、改善できる。
- ・数年後の最終ゴールを明確にし、今年度はここまで到達するといった全体像が見えるようにする
- ・研修時間の30時間という長さについての説明
- ・今回の研修を受けた先生には、学校で他の先生達に水平的に展開できる方に参加してもらいたい。（中核的な先生）

- ・最終的な成果物  
研修プログラムとしての実証講座（マニュアルも）  
事前学習用のプロトタイプ  
アンケートの集計によって現時点での授業の作られ方の統計情報  
教材の作成 の4点
- ・企業が欲しい人材について、分野がひろいので、すべてにあてはまる、横断的、基礎的なものになる
- ・企業からの意見、要望の取りまとめの方法
- ・教育課程編成委員会でいただいた目標・目的がそのまま目標になる

A L

伊藤先生より

- ・分科会の内容説明
- ・主体的な役割を果たして頂く小林委員の紹介・説明
- ・A L実証講座についての説明  
I Dが理論で、A Lは実践（実際の授業）
- ・アクティブラーニングとアクションラーニングの違い
- ・A L型授業の説明  
A Lは多数の大学で今行われている
- ・アクションラーニングの説明（P D C Aになっている）  
A Lセッションをアクションラーニングとする
- ・開発の4つの目的について説明
- ・研修の6つの目標の説明
- ・事前研修、集合研修、事後研修の説明
- ・今後のスケジュールの説明
- ・研修の成果物  
研修のカリキュラム  
シラバス  
教材  
研修実施マニュアル 以上の4つ

小林先生から

- ・A L型授業とA Lセッションについての説明  
文科省の新指導要領と最近のアメリカでの状況について

- |  |  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 大学入試制度の改革<br/>小・中・高で、A L型授業を経験した学生が入学してくる<br/>その時、今のままでの授業形態ではだめ</li><li>・ 小林先生の物理の授業プロセスの説明</li><li>・ 将来にわたって成長できるスキルを身につけることが大事</li><li>・ K o l bの経験学習理論についての説明</li><li>・ 定例介入と定例外介入についての説明</li><li>・ A L型授業が向かない科目はない（体育、医師国家試験でも）</li><li>・ 一番いい書籍「実践アクションラーニング入門」の紹介</li><li>・ 基礎的な学習にこそA Lに向いている</li><li>・ 聞くだけの講義では、脳は働いていない。A L型授業が活発に動く</li><li>・ 社会的感応度（感受性）について</li></ul> |
|--|--|

以上